多くの対象事業等で幅広い支援を実施するためである。

▼上池如夫議員
世帯への支給ではなく、個人への支給が妥当ではないか。世帯とした根拠は。町独自の予算措置が必要ではないか。

支給される商品券

▼岩﨑憲郎町長
国の1次補正の限られた予算の中で、町内の消費購買力の下支えと家計への支援という視点から、世帯当たりの商品券の給付が妥当と考えている。
町独自の支援として、商業、林業、農業など個人の事業者も含め支援する施策を実施しているが、完全ではないので、国の2次補正で次の対策を考える。

▼前野由和議員
介護の事業所は、利用者の減少や休所等で減収になっていないのか。その実態を把握しているか。また減収の場合やコロナ対策で掛かった経費について、補填を検討しているか。

▼大石雅夫住民課長
町内の事業所は開所した状態で対応しており、減額になるような状況はない。

▼岩﨑憲郎町長
さまざまな影響について検証し、国の2次補正の内容により検討する。

令和2年度一般会計予算（第3回）

▼小川智也議員

旧庁舎解体の工程で、開始する時期が分かれば説明を。

▼下村賢彦総務課長

解体工事は概ね年内を目標に計画しているが、解体後の外構工事は来年になる見通しである。

▼小川智也議員
本町の小、中学校で感染を防ぐ対策はどのようにしているのか。

手洗いする児童

▼北村邦彦教育次長

文部科学省からのガイドラインにより、登校時の検温、手指の消毒、換気などを励行している。独自には、スクールバスの車内の手で触れる場所の消毒を行っている。

人事

人権擁護委員候補者の推薦（賛成・全員）

住所 大豊町黒石70番地1
氏名 西谷 美代 委員

住所 大豊町川口1137番地3 特定ふるさと住宅3－1
氏名 美濃 明男 委員

町政を問う（一般質問）

問1 感染症対応の検証と課題は 支援は行き届いたか

答 全力で取り組んだ

▼前野由和議員
小中学校の全国一斉休業により児童生徒の学習遅れが懸念された。特に新入生は学びの基本を身に付ける時期に重なった。この間の学校教育に関する対応はどうであったか。また今後の対応は。

▼池添修一教育長
発達段階や学習状況に応じた教材を使用し、これまで学んだ学習内容の習熟、定着を図ること、活用力や調べる力を付けるなど、7つの目的を達成するための家庭学習に取り組んだ。今後の対応として、遅れた授業時間は、学校行事の一部延期や夏休みの短縮により取り戻し、第2波に備えICTを活用した家庭学習ができる環境を整備していく。

▼前野由和議員
コロナ感染症防止対策の検証と第2波、第3波に対しての今後の取り組みは。

▼岩﨑憲郎町長
対策本部を設置、感染防止対策の啓発活動を実施するとともに庁舎内での対応、会議の自粛等できる対策に全力で取り組んできた。また経済対策として給付金の支給、公的負担の猶予等、経済活動への支援も行ってきた。今後は感染症対策の視点から避難所の構造、設備の改善、更なる町内産業への経済対策を検討していく。

役場庁舎内感染症対策

▼前野由和議員
台風シーズンを迎え複合災害の危険が迫っているが、地区タイムラインも見直しを検討すべきではないか。

▼岩﨑憲郎町長
タイムラインは災害対応の事前行動計画なので、事前避難する基本は変わらないが、感染が想定される場合にどう対応をするかという視点で今後取り組む。

問2 地域力低下への支援を望む 問題解決へ一緒に取り組んでほしい

答 役場全体で対応する

▼前野由和議員
超高齢化と急激な人口減で地域力がなくなってきており、地域の問題等を解決できなくなってきている。役場として解決ができなくても住民に寄り添い、解決への方策を一緒になって考えていく姿勢を見せて欲しい。

▼岩﨑憲郎町長
地域のコミュニティが地域社会を支え、課題を解決していくと考えているのでしっかり支えていく。役場や議会が役割を果たし、協力し合い、地域と一緒に解決していくことが必要と考える。

問3 感染症流行時の対策はできているか 危機感を持ち備えが必要ではないか

答 できる対応をする

▼小笠原妙子議員
新型コロナウイルス感染症流行時に災害が発生した場合、避難所ではどういう対応を考えているのか。

▼岩﨑憲郎町長
避難所においての感染症対策としては、備蓄しているパーテーションなどを利用するなど、今できる対策を現場ごとに考え対応していく。